

執筆要領

原稿について

本誌では、投稿原稿を受け付けています。以下の執筆要領にしたがって原稿を編集局までお送り下さい。原稿の採用については、編集委員会が中心になって査読を行います。必要に応じて関連分野の専門家に依頼し決定します。

原稿は、ワードプロセッサまたはコンピュータソフトを用いて作成する。原稿のファイルを図表のファイルとともに、編集局へメールの添付書類にてお送りください。念のため、書式付テキスト形式（RTF形式）で保存したファイルも添付するようにしてください。メールで送信できない場合には、プリントアウトした原稿1部（図表を含む）とそれらのファイルを保存したフロッピーディスクまたはCD-ROMなどを編集局へ送付下さい。フロッピーディスクのフォーマット、使用したパソコンの機種、ワープロソフトは一般に使われているものなら何でも結構ですが、使用したOS、ワープロソフト、氏名及びファイル名をフロッピーディスクの上に明記して下さい。なお、この場合にも念のため、テキスト形式で保存したファイルも添付するようにして下さい。

総説と技術ノートの著者には、別刷り50部を無料でさしあげます。50部以上希望の場合は有料となりますので、編集局までその旨連絡して下さい。また、非会員で総説または技術ノートを執筆いただいた場合、会費免除で1年間本学会会員になれます。

1. 総説と技術ノート（電子ファイルで投稿の場合には、5）は無くても結構です）

- 1) 原稿の長さは、図、表、文献を含め刷り上がりで4~5ページ程度（1頁は約2100字と考えて下さい：横1行23文字で1頁46×2=92行）とする。
- 2) 第1頁に表題、著者名、所属及びその所在地、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス及び脚注（必要がある場合）を記す。
- 3) 第2頁に400字程度のアブストラクトを記入する。
- 4) 本文に節を設ける場合、1.、2.、3.、・・・とする。
- 5) 書体の指定は、プリントアウトした原稿に朱で行い、斜体（イタリック体）は1本下線（_____）、太文字（ゴシック体）波下線（~~~~~）とする。
- 6) 参考文献の数は特に制限しないが、50編以内が望ましい。参考文献は、アルファベット順に通し番号を付けて文末にまとめて掲げる。本文中の引用箇所には、通し番号を右肩に付けて示す。
（例）Aschoffによる¹⁻³⁾、・・・である^{5, 8, 9)}。
- 7) 文末の参考文献の記載は、次のようにする。
[雑誌] 通し番号) 著作名：誌名、巻数、ページ（発行年）
[書籍] 通し番号) 著作名：書名、ページ、発行所（発行年）
（例）1) Aschoff J, Gerecke U, Wever R: Jpn J Physiol 17:450-457 (1967)
2) Aschoff J: Circadian Clocks, pp 95-111, North-Holland, Amsterdam (1965)
- 8) 表は原則として3~5程度とするが、必要に応じて増やすことができる。簡潔な標題と必要な説明をつけて、本文とは別の用紙に作成する。
- 9) 図は原則として3~5程度とするが、必要に応じて増やすことができる。図には簡単な標題を付ける。図の標題と説明は別紙にまとめる。
- 10) 図及び表の表示は、図1、図2、・・・、表1、表2、・・・の通し番号で行う。これらを挿入する箇所を、プリントアウトした本文の原稿欄外にエンピツ書きで指示する。
- 11) 図及び表を文献から引用した場合、引用を明記するとともに、引用の許可が必要な場合には、著者の責任で許可をとっておく。

2. 研究グループ

研究室や研究グループの紹介記事。刷り上がりで1~2ページ程度。執筆者を含む顔写真、または研究現場のスナップ写真を少なくとも1枚は添付する。写真には標題と説明を付ける。

3. 海外レポート

留学などで滞在した研究室、訪問した研究施設、あるいは海外調査や見聞の紹介記事。写真があれば添付する。刷り上がりで2~4ページ程度とする。

4. 関連集会報告

国内外の関連集会の紹介記事。写真があれば添付する。刷り上がりで2~4ページ程度。

編集後記

- 本年度からは編集局が岡山大学へ移動した。編集委員は従来の5名体制から若手の会員を中心に各分野をカバーすべくさらに4名を加えて9名体制へと変わり、学会誌の編集体制はより強化された。会員の皆様の期待に沿う会誌を作ってゆきたいと願っている。会員の皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いである。編集の方式については、10巻まで担当されてきた海老原前編集長の方式をほぼそのまま踏襲させていただいており、印刷は名古屋大学生協同組合印刷部に、引き続きお世話になっている。なにぶん不慣れなため、手際が悪く、執筆いただいた先生方には大変ご迷惑をおかけし、申し訳なく思っている。記してお詫び申し上げます。
- 今回から総説の責任著者にはメールアドレスと連絡先住所を掲載させていただいている。これは直接著者と連絡を取りたいという読者の要望に応えるものである。個人情報保護法が施行され、本学会誌の中で扱われる情報についても、取り扱いに注意を払う必要が生じてきた。会員名簿のあり方についても、今後検討する必要があるように思う。
- 新年度が始まって一月が過ぎ、野山も芽生えの淡い緑から豊かな萌黄色の季節へと変わりつつある。木々の成長に強い生命力を感じる。研究もこのように、新鮮さを保ちつつ、成長をつづけるものでありたいと願う。会員の皆様のますますの発展を祈る次第である。

時間生物学 Vol. 11, No. 1 (2005)

平成 17 年 5 月 31 日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

(事務局) 〒202-0021 西東京市東伏見2-7-5

早稲田大学理工学部、電気・情報生命工学科薬理研究室内

TEL: 0424-61-1291 FAX: 0424-50-2271

(編集局) 〒700-8530 岡山市津島中3丁目1-1

岡山大学大学院自然科学研究科、時間生物学研究室内

TEL&FAX: 086-251-8498

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部